

札幌市

要介護（支援）認定者意向調査 報告書（概要版）

令和8年3月

目次

1	調査の概要.....	1
2	基本的事項.....	2
3	介護保険との関わり.....	6
4	介護（予防）サービスの利用状況.....	9
5	介護（予防）サービス未利用の方の状況.....	13
6	今後の暮らし方.....	19
7	介護保険料と介護サービス.....	21
8	介護者の状況.....	23
9	家族介護者の状況.....	24

1 調査の概要

(1) 調査目的

この調査は、在宅における介護保険サービスの利用状況や家族による介護の状況などを把握し、令和9年度を始期とする新たな「札幌市高齢者支援計画」の策定や各高齢者施策・介護保険事業の実施に当たっての基礎資料とすることを目的として実施した。

(2) 調査対象

令和7年11月1時点で、要介護（支援）認定を受けている札幌市民から5,000人を要介護等状態区分別、介護保険料の所得段階別、居住区別の構成比率に基づき無作為に抽出した。

(3) 調査基準日

令和7年12月1日現在の状況について回答していただいた。

(4) 調査期間

令和7年12月1日～12月22日

(5) 調査方法

郵送による調査票の発送・回収

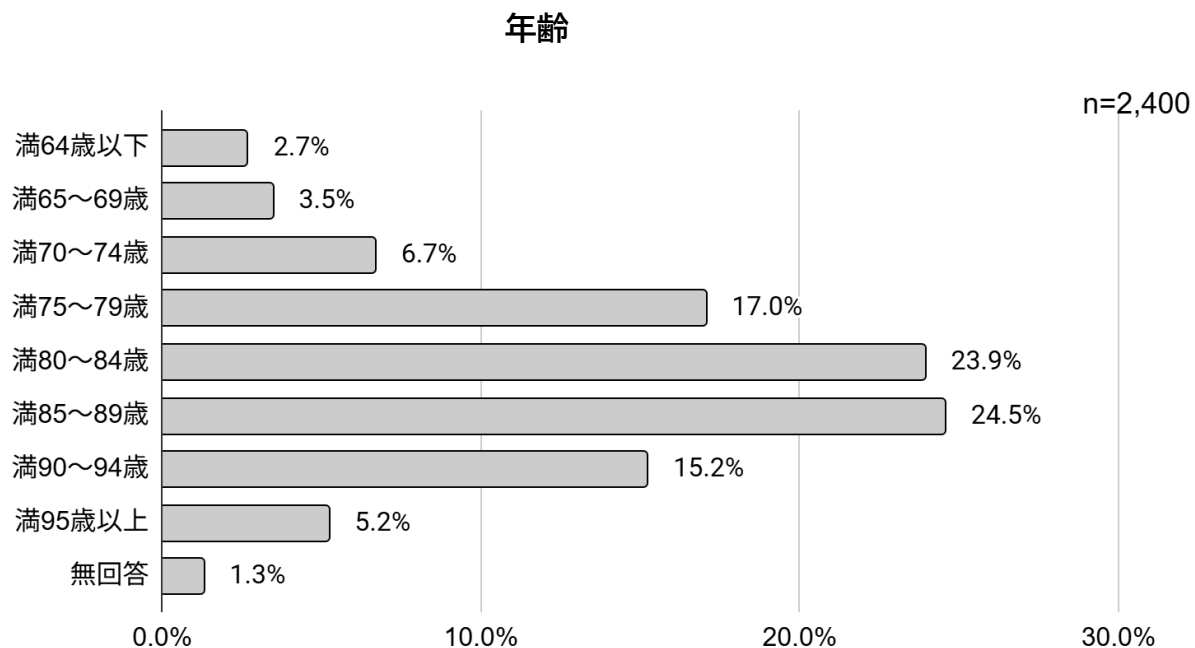
(6) 回収結果

発送数	5,000件
回収数	2,646件（52.9%）
有効回収数	2,642件（52.8%）
有効回答数	2,400件（48.0%）

2 基本的事項

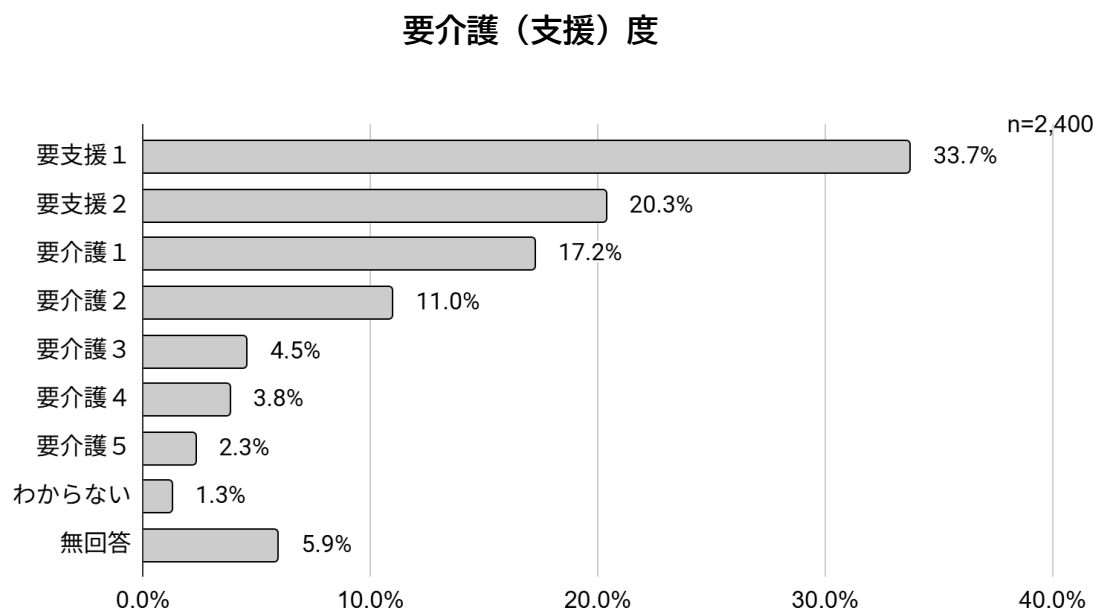
年齢

年齢については、「満85～89歳」が24.5%と最も多く、次いで「満80～84歳」が23.9%、「満75～79歳」が17.0%となっている。



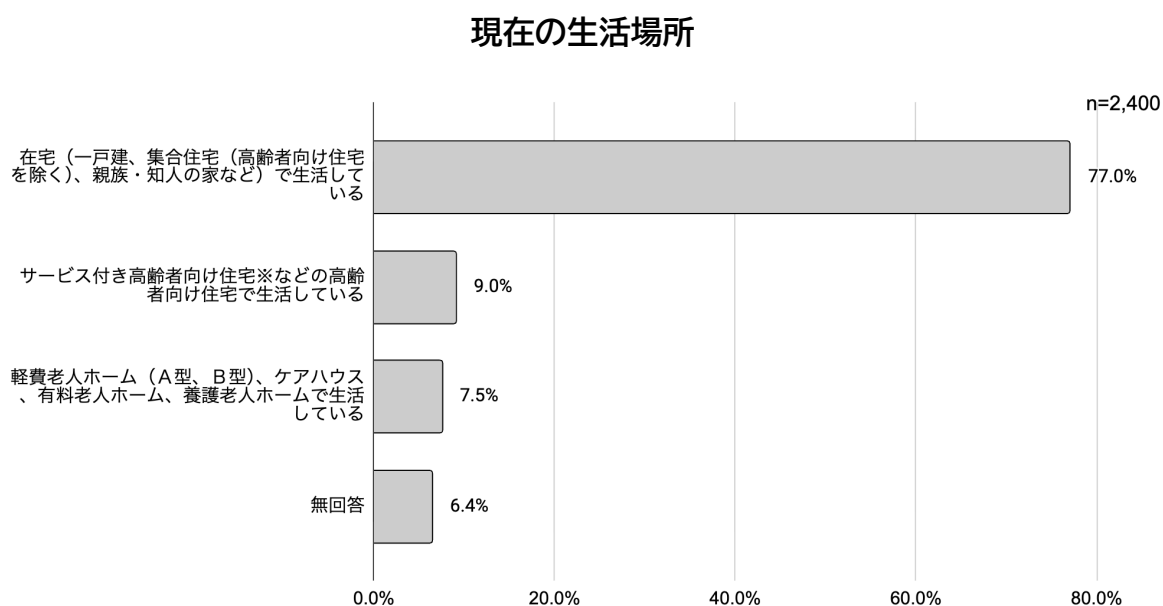
要介護（支援）度

要介護（支援）度については、「要支援1」が33.7%と最も多く、次いで「要支援2」が20.3%となっている。



現在の生活場所

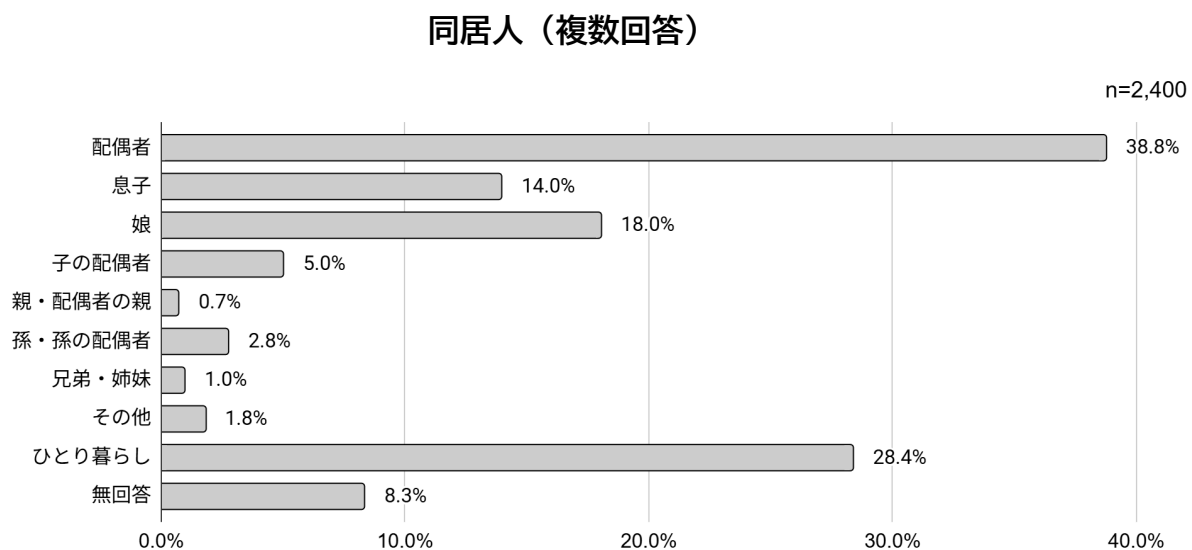
現在の生活場所については、「在宅（一戸建、集合住宅（高齢者向け住宅を除く）、親戚・知人の家など）で生活している」が77.0%と最も多く、次いで、「サービス付き高齢者向け住宅※などの高齢者向け住宅で生活している」が9.0%となっている。



※「サービス付き高齢者向け住宅」とは、住宅としての居室の広さや設備、バリアフリーといったハード面の条件を備えるとともに、ケアの専門家による安否確認や生活相談サービスを提供することなどにより、高齢者が安心して暮らすことができる環境を整えた住宅をいう。

同居人（複数回答）

同居人については、「配偶者」が38.8%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が28.4%、「娘」が18.0%となっている。

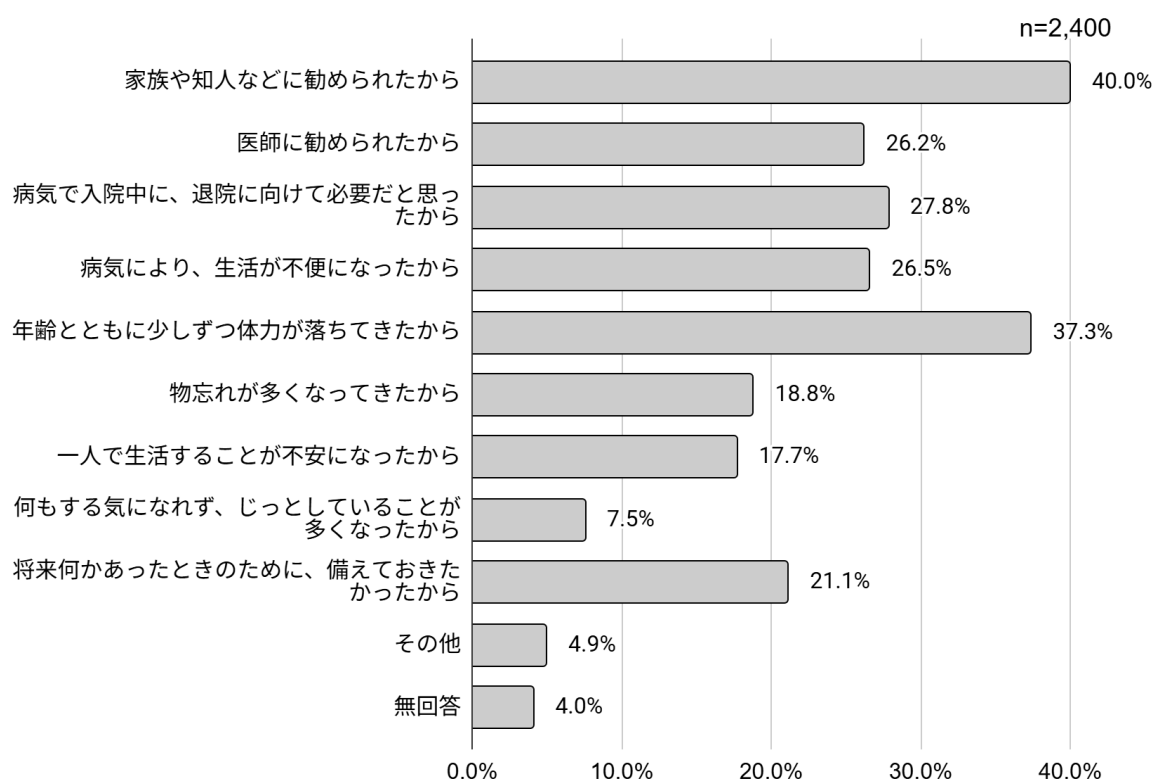


3 介護保険との関わり

認定申請のきっかけ（複数回答）

要介護（支援）認定を受けたきっかけについては、「家族や知人などに勧められたから」が40.0%と最も多く、次いで「年齢とともに少しずつ体力が落ちてきたから」が37.3%、「病気で入院中に、退院に向けて必要だと思ったから」が27.8%となっている。

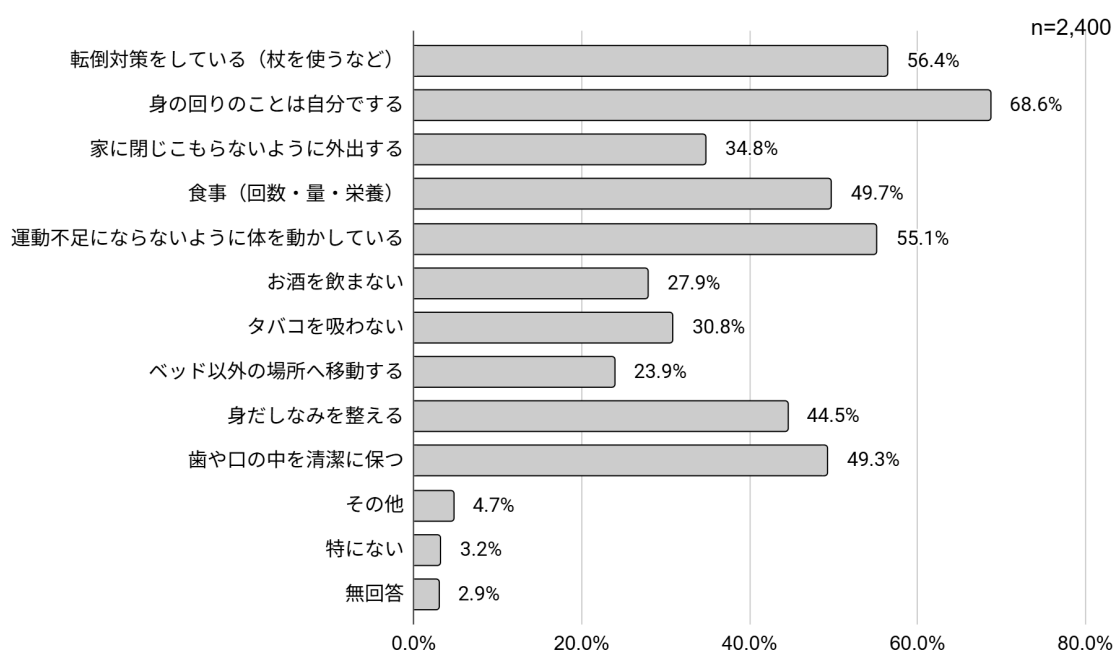
認定申請のきっかけ（複数回答）



重度化防止の取組（複数回答）

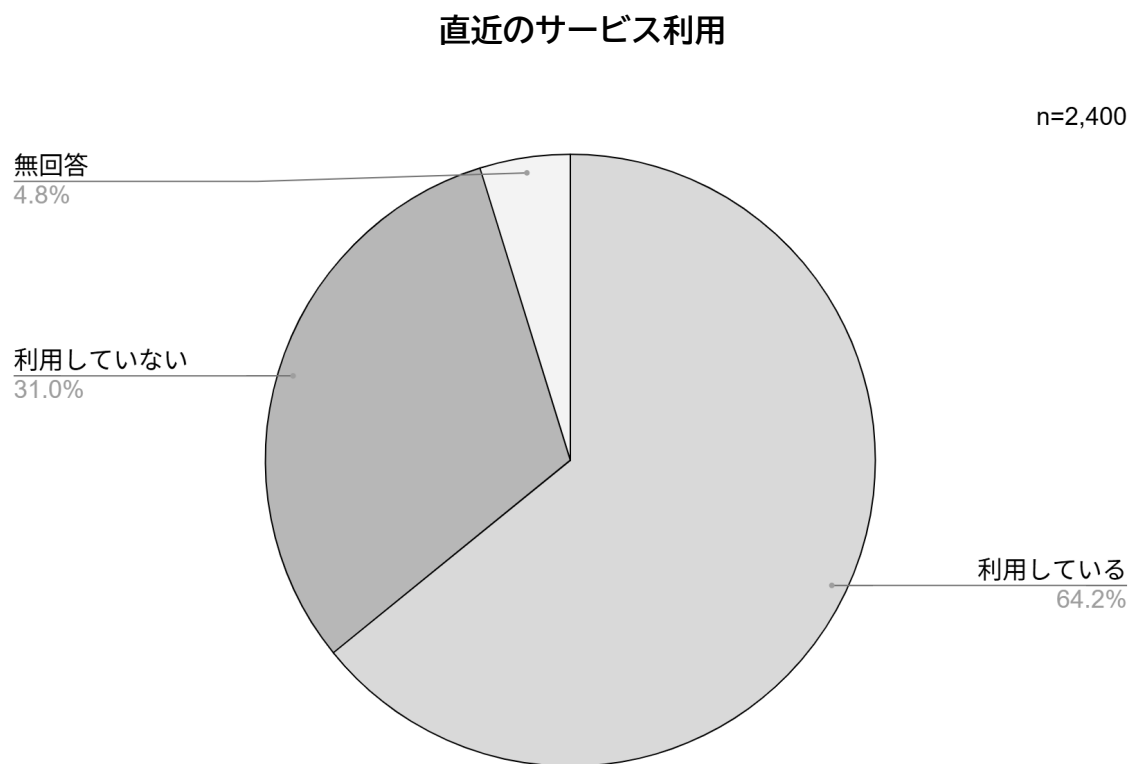
要介護（支援）度が重くならないように気をつけていることは、「身の回りのことは自分でする」が68.6%と最も多く、次いで「転倒対策をしている（杖を使うなど）」が56.4%、「運動不足にならないように体を動かしている」が55.1%となっている。

重度化防止の取組（複数回答）



直近のサービス利用

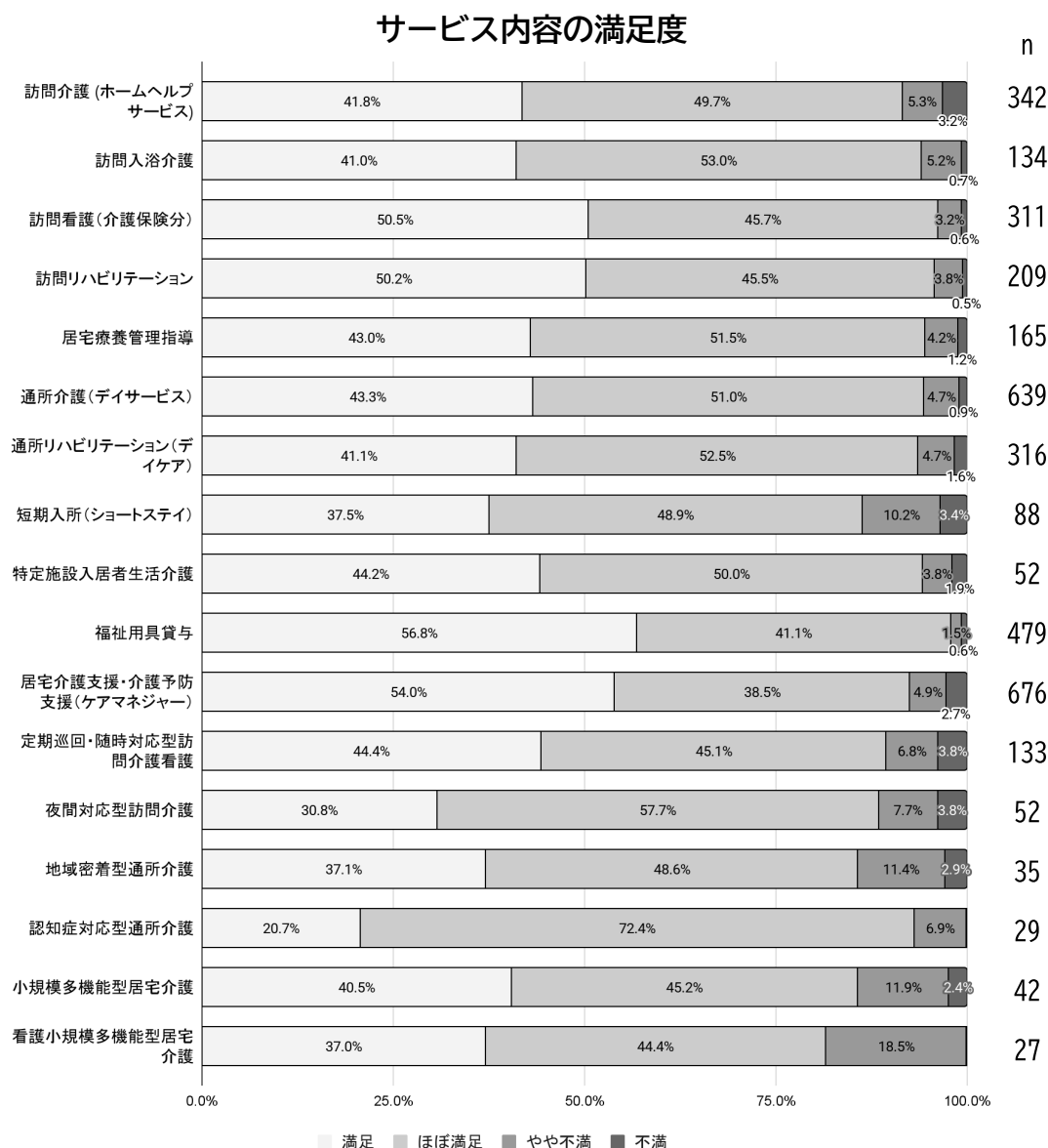
介護サービス利用の有無については、「利用している」が64.2%、「利用していない」が31.0%となっている。



4 介護（予防）サービスの利用状況

サービス内容の満足度

介護サービス別でみると、いずれのサービスも「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合が80.0%を超えている。

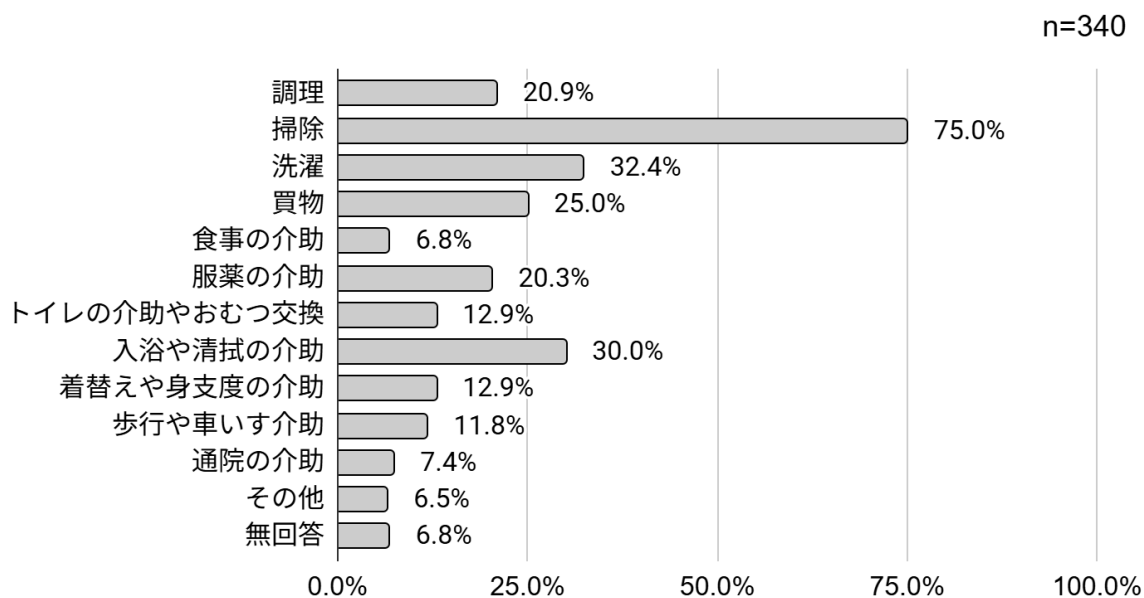


※「利用していない」（①n=403、②n=492、③n=380、④n=446、⑤n=441、⑥n=263、⑦n=421、⑧n=500、⑨n=513、⑩n=255、⑪n=137、⑫n=464、⑬n=517、⑭n=538、⑮n=540、⑯n=533、⑰n=543）、「無回答」（①n=795、②n=914、③n=849、④n=885、⑤n=934、⑥n=638、⑦n=803、⑧n=952、⑨n=975、⑩n=806、⑪n=727、⑫n=943、⑬n=971、⑭n=967、⑮n=971、⑯n=965、⑰n=970）を除いて集計している。

具体的な訪問介護の内容（複数回答）

訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用している方に、具体的に利用している内容を尋ねたところ、「掃除」が75.0%と最も多く、次いで「洗濯」が32.4%、「入浴や清拭の介助」が30.0%となっている。

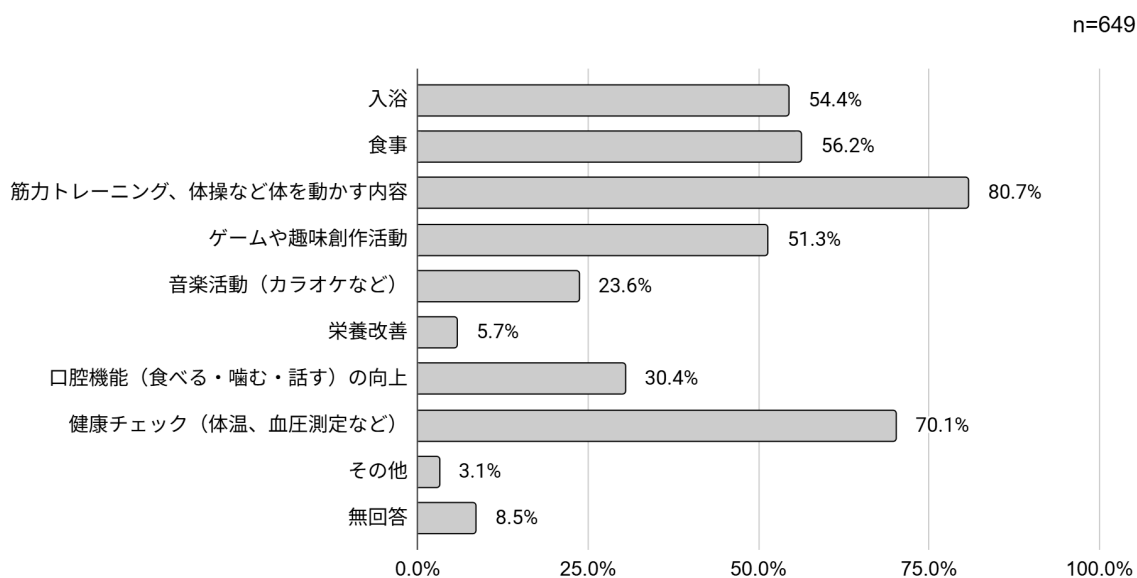
具体的な訪問介護の内容（複数回答）



具体的な通所介護の内容（複数回答）

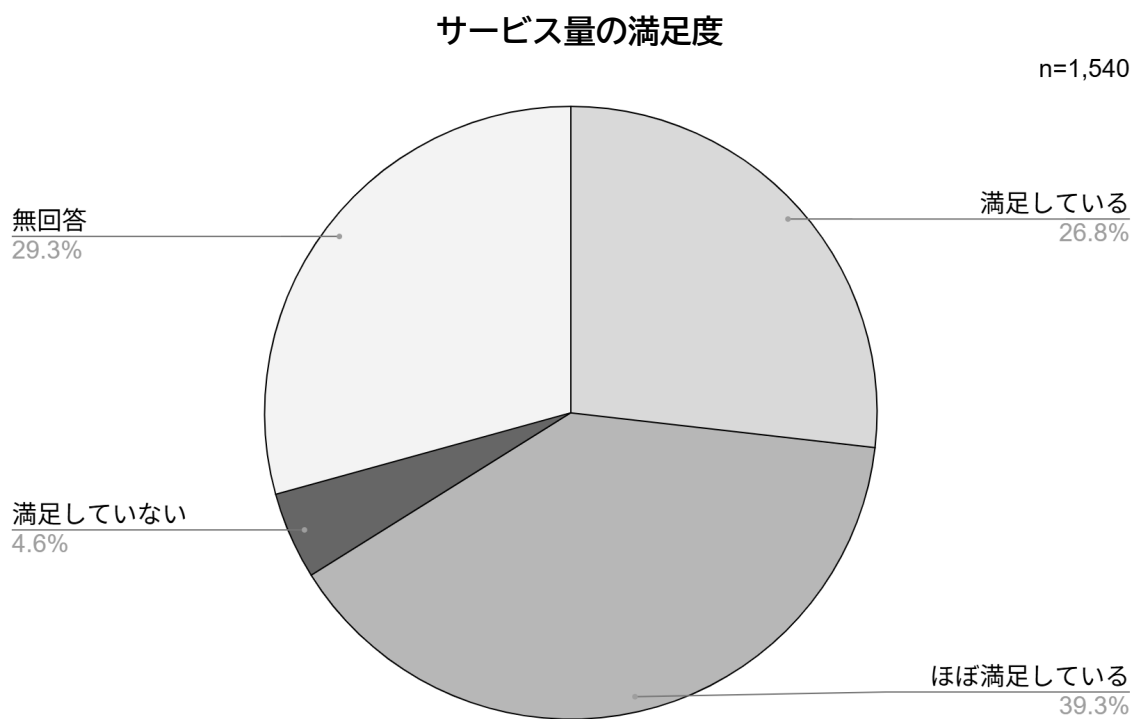
通所介護（デイサービス）を利用している方に、具体的に利用している内容を尋ねたところ、「筋力トレーニング、体操など体を動かす内容」が80.7%と最も多く、次いで「健康チェック（体温、血圧測定など）」が70.1%、「食事」が56.2%となっている。

具体的な通所介護の内容（複数回答）



サービス量の満足度

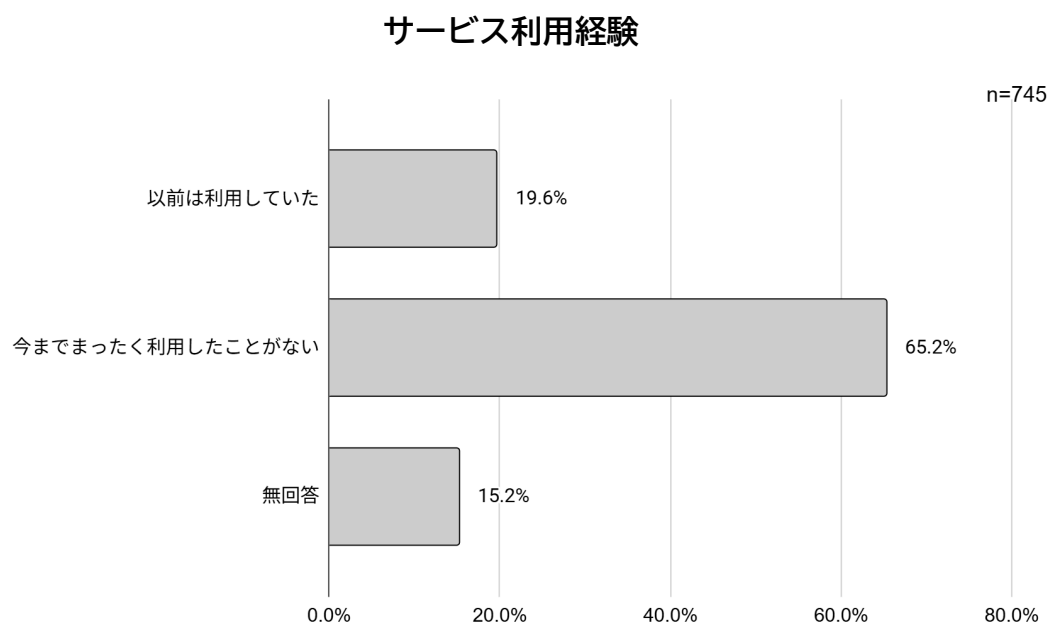
現在受けているサービス量の満足度については、「ほぼ満足している」が39.3%と最も多く、次いで無回答を除き「満足している」が26.8%、「満足していない」が4.6%となっている。



5 介護（予防）サービス未利用の方の状況

サービス利用経験

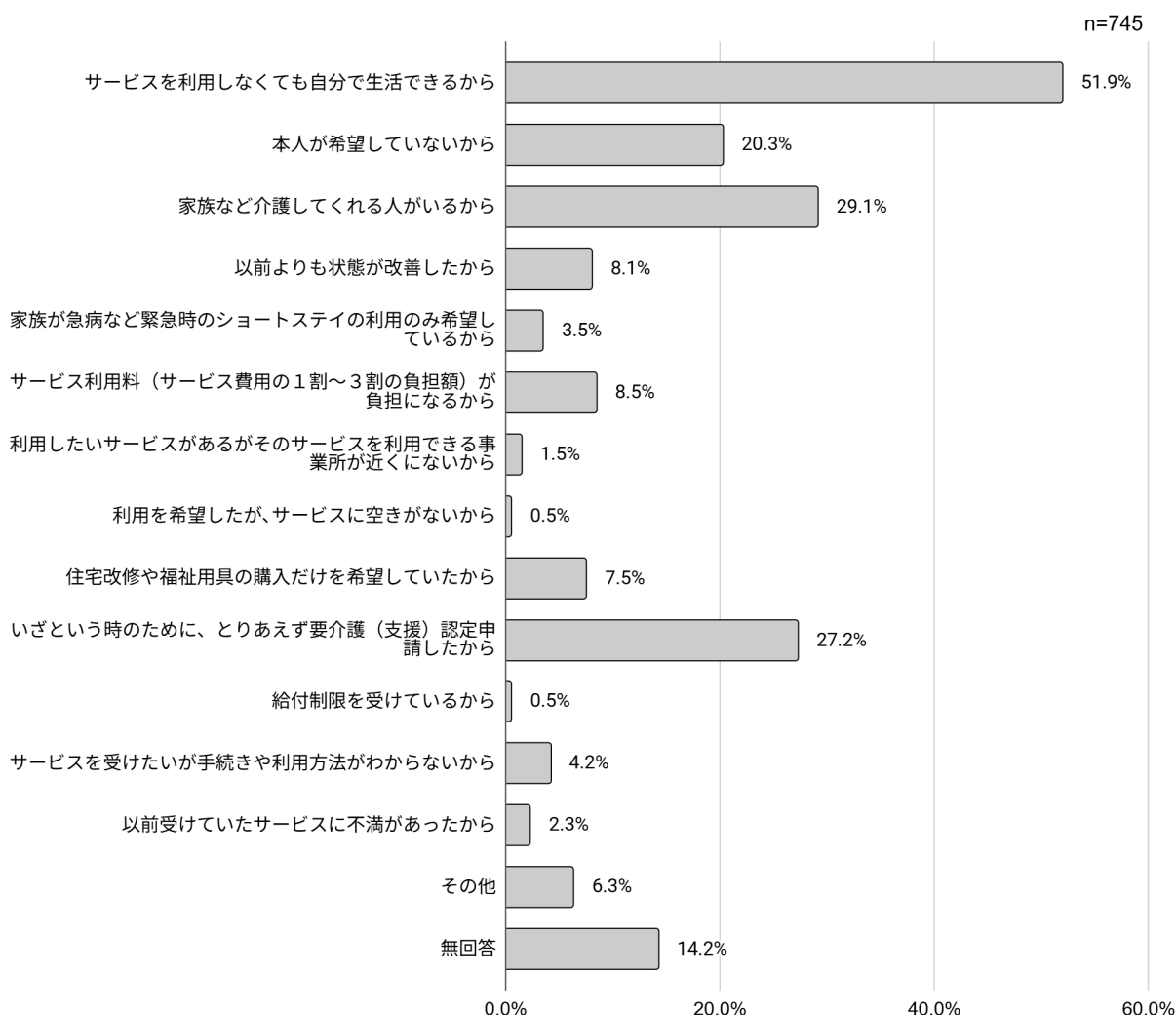
過去1か月にサービスを利用していない方に利用経験を尋ねたところ、「今までまったく利用したことがない」が65.2%、「以前は利用していた」が19.6%となっている。



未利用の理由（複数回答）

サービスを現在利用していない理由を尋ねたところ、「サービスを利用しなくても自分で生活できるから」が51.9%と最も多く、次いで「家族など介護してくれる人がいるから」が29.1%、「いざという時のために、とりあえず要介護（支援）認定申請したから」が27.2%となっている。

未利用の理由（複数回答）

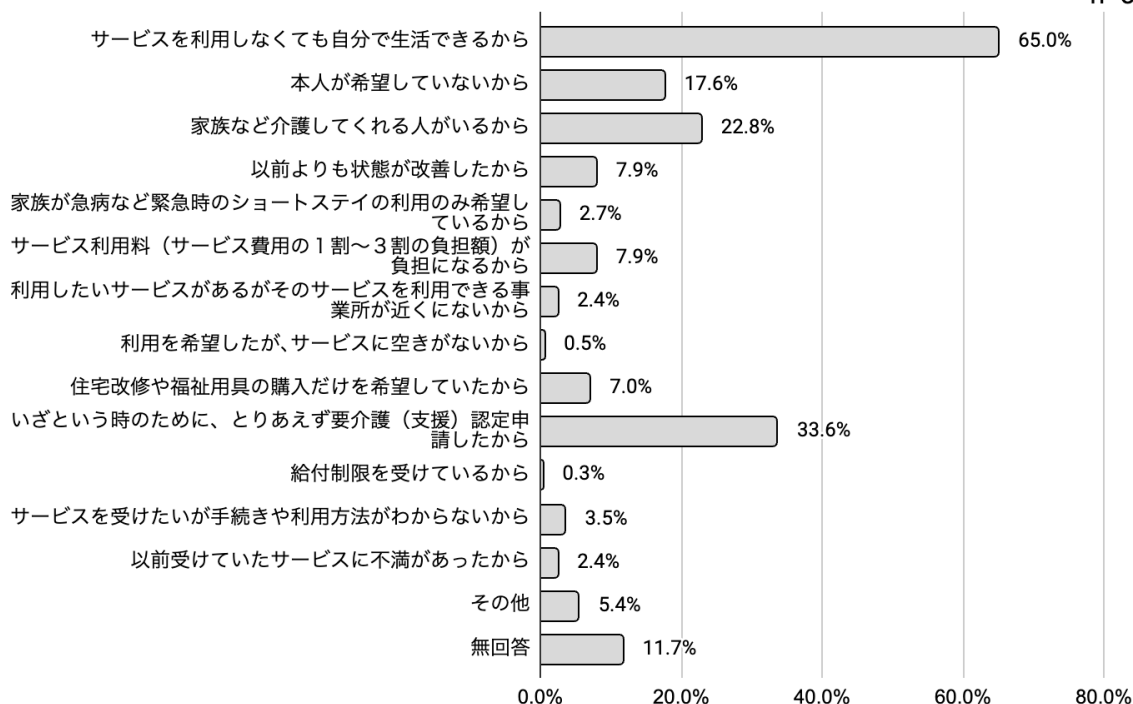


要介護（支援）度別にみると、要支援者は「サービスを利用しなくても自分で生活できるから」「いざという時のために、とりあえず要介護（支援）認定申請したから」が多い傾向がみられる。一方で、要介護者は「家族など介護してくれる人がいるから」が多い傾向がみられる。

未利用の理由（複数回答） × 要介護（支援）度

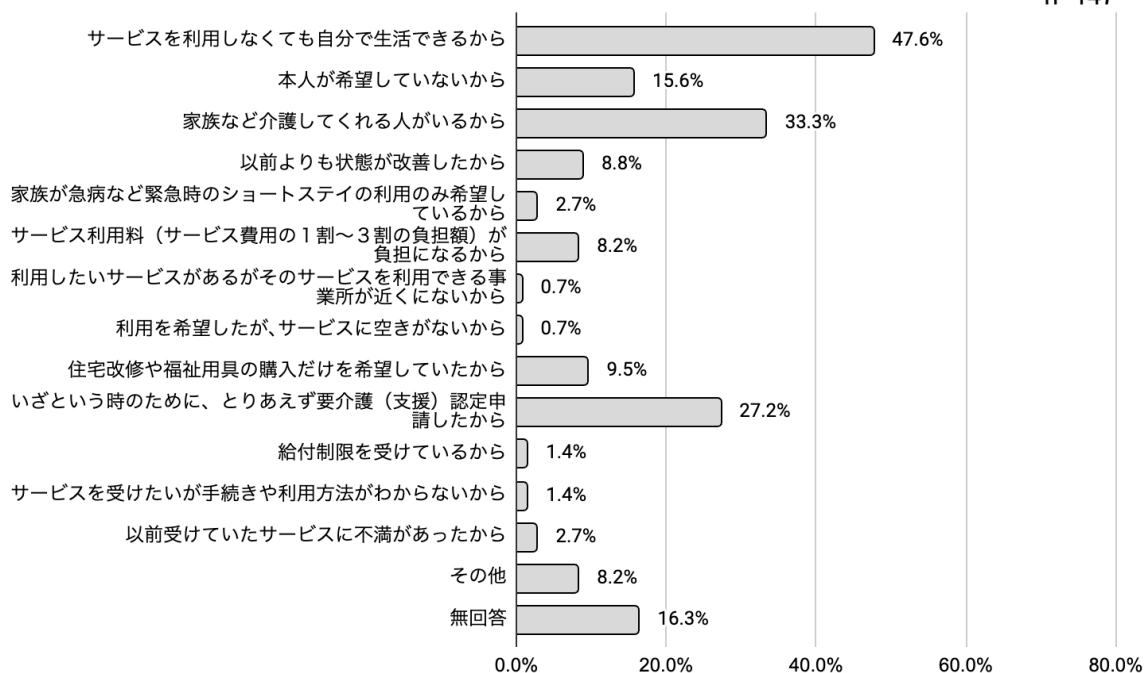
要支援1

n=369



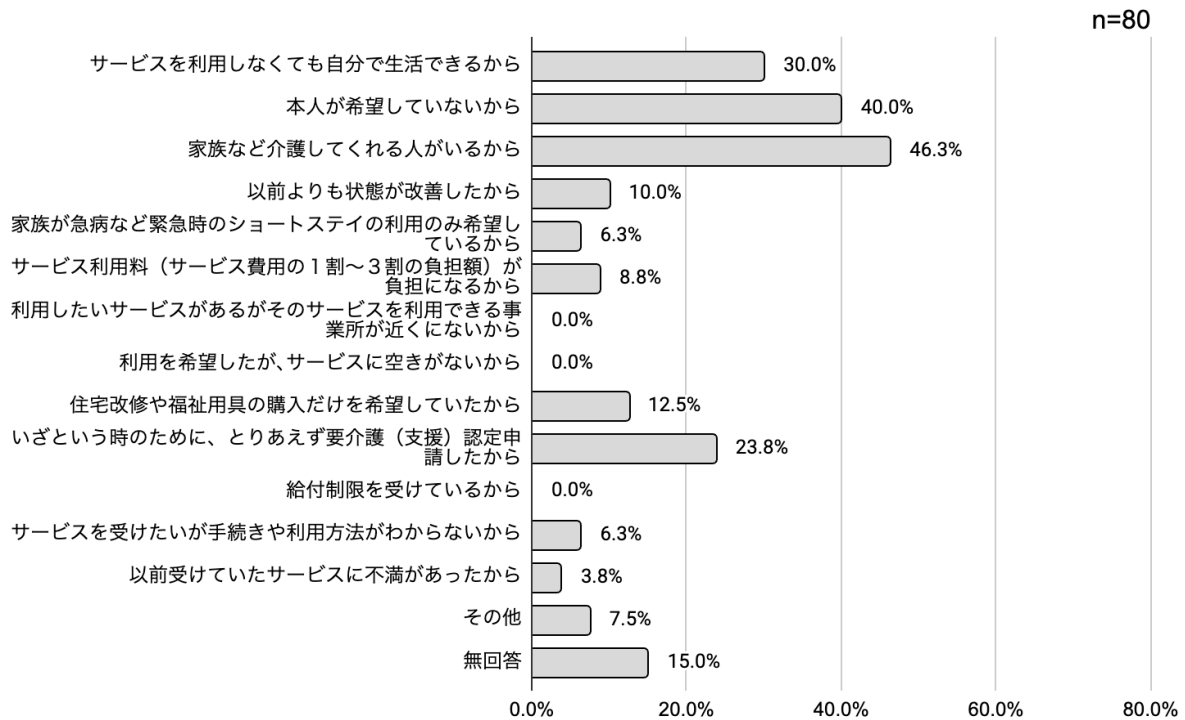
要支援2

n=147

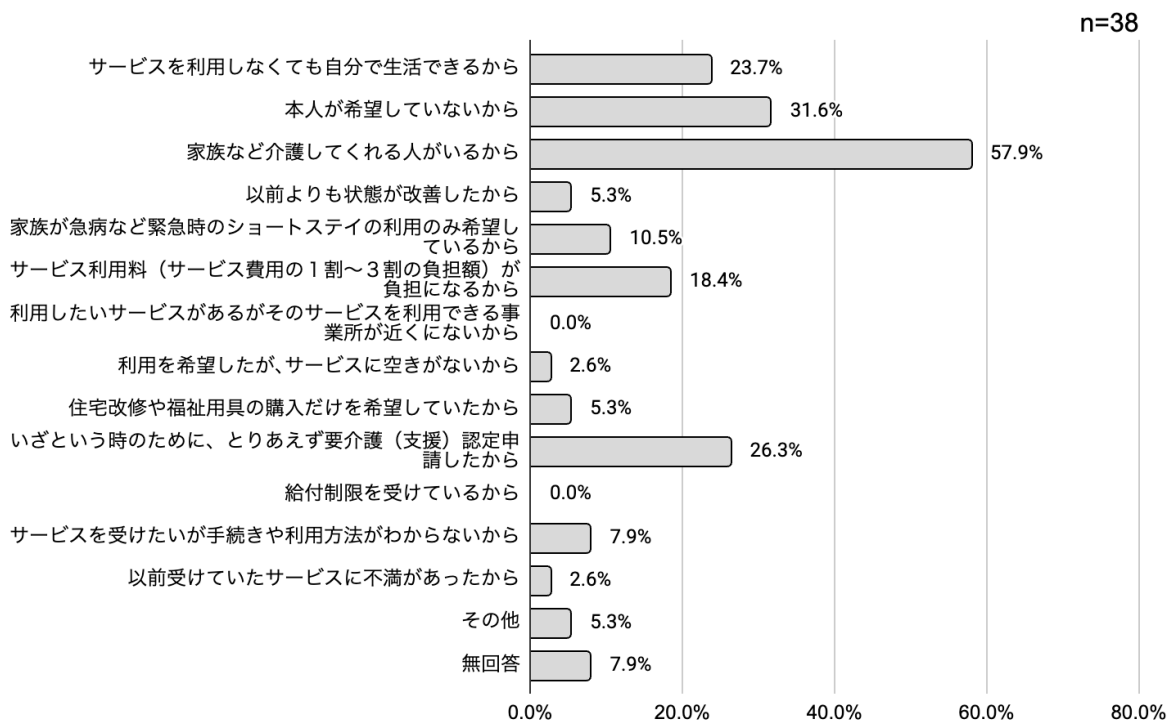


未利用の理由（複数回答） × 要介護（支援）度

要介護1

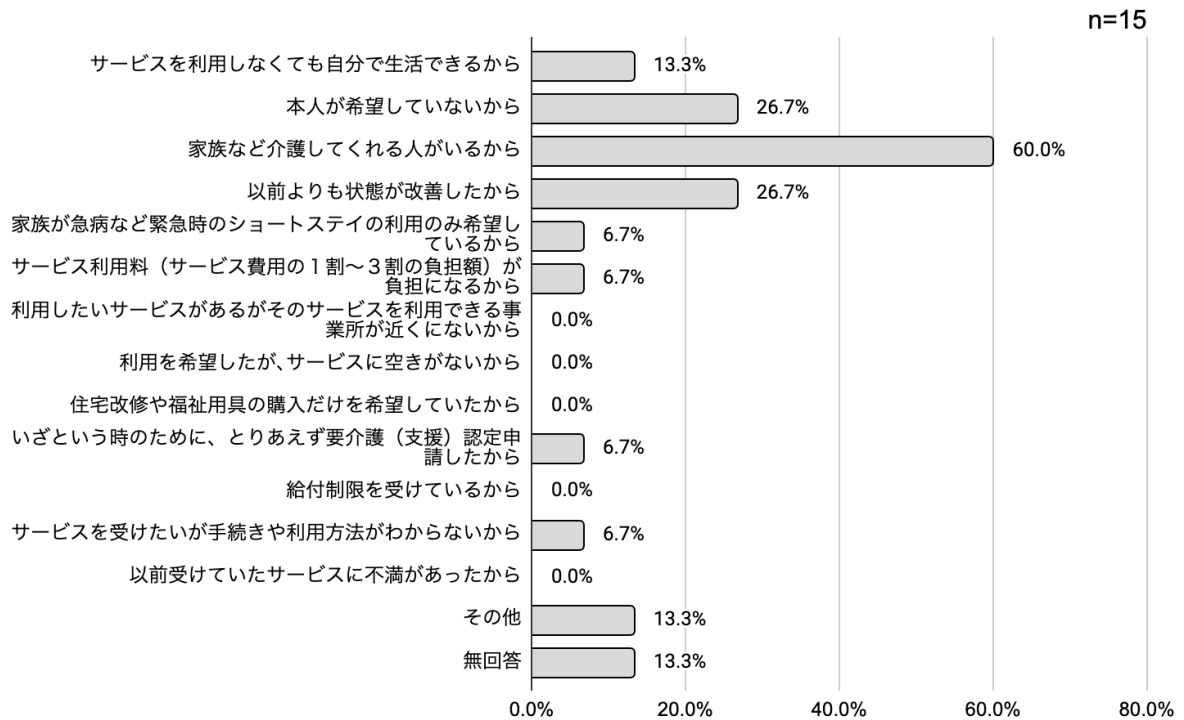


要介護2

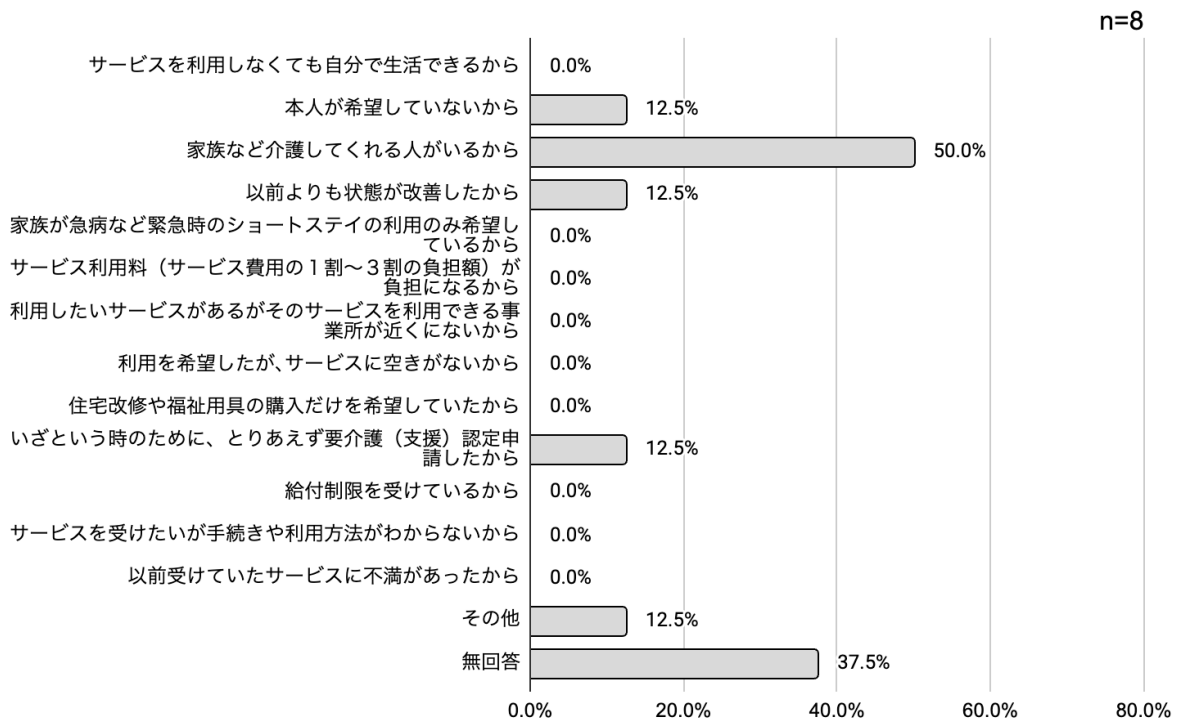


未利用の理由（複数回答） × 要介護（支援）度

要介護3

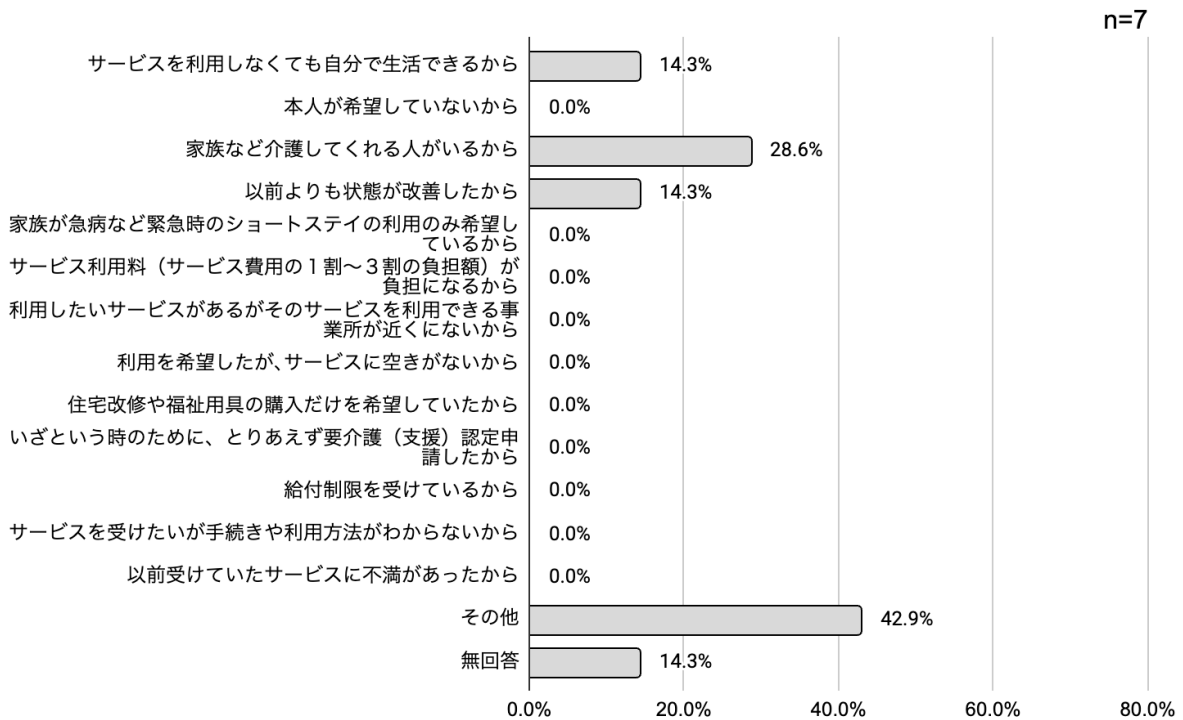


要介護4

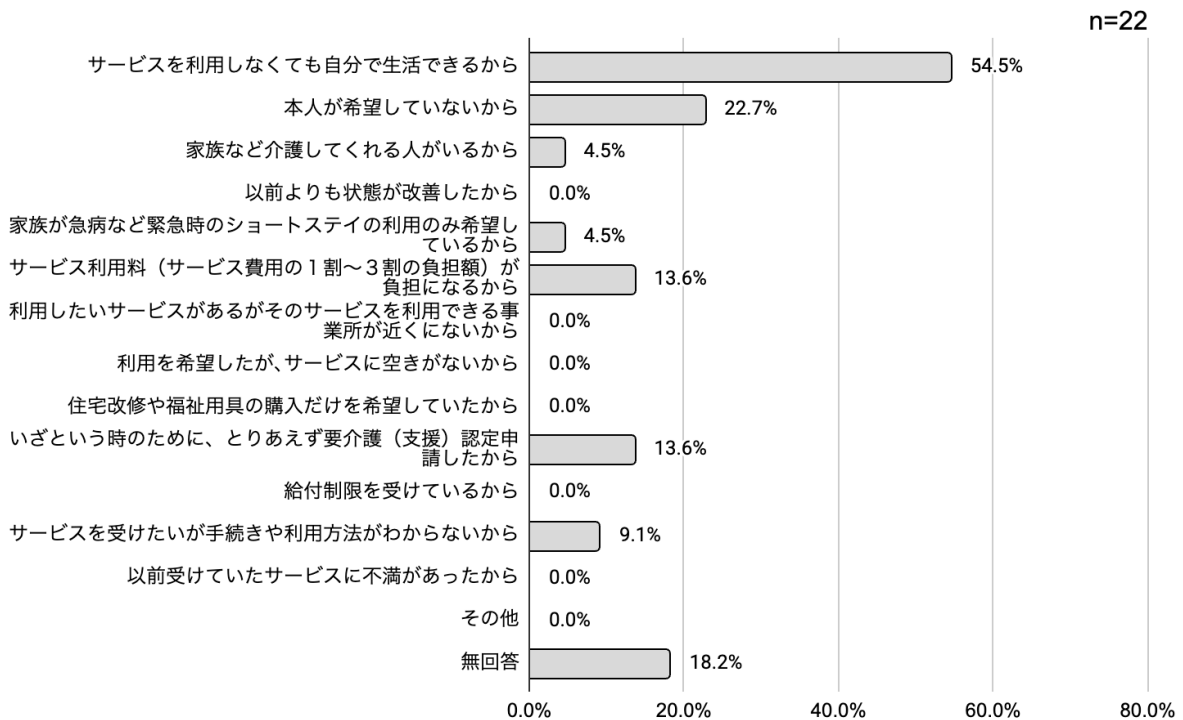


未利用の理由（複数回答） × 要介護（支援）度

要介護5



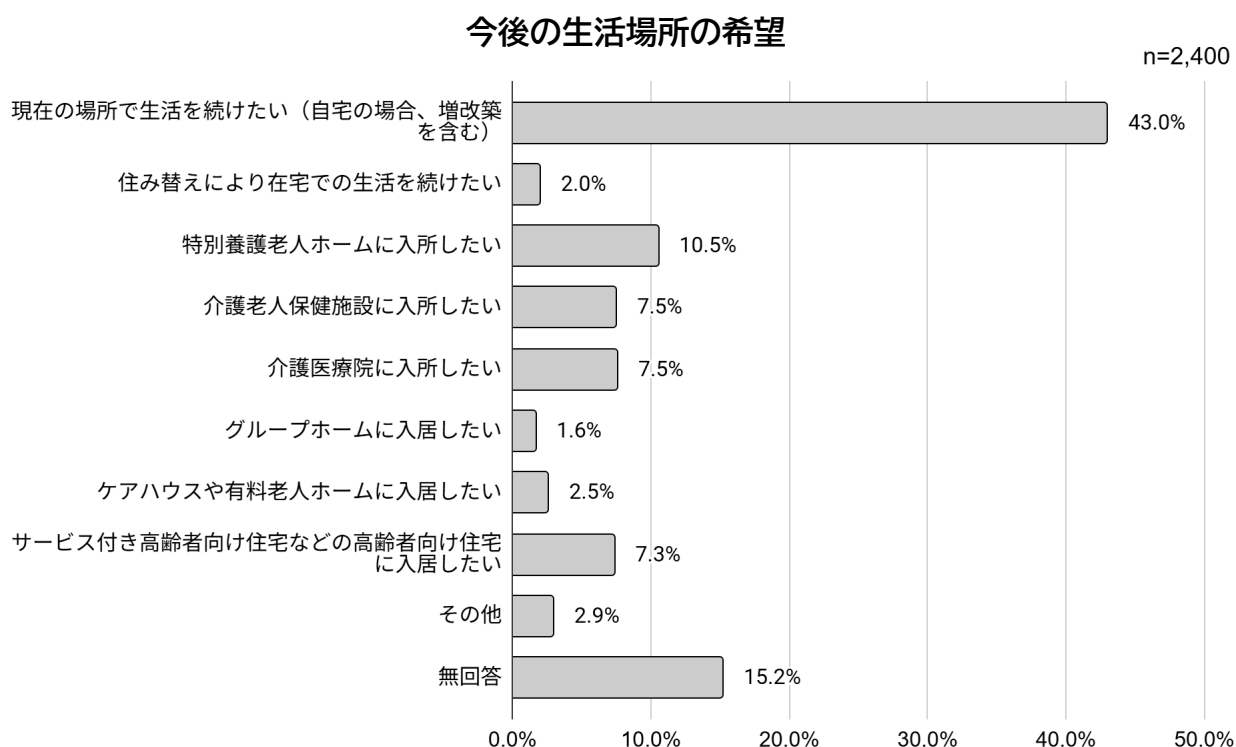
わからない



6 今後の暮らし方

今後の生活場所の希望

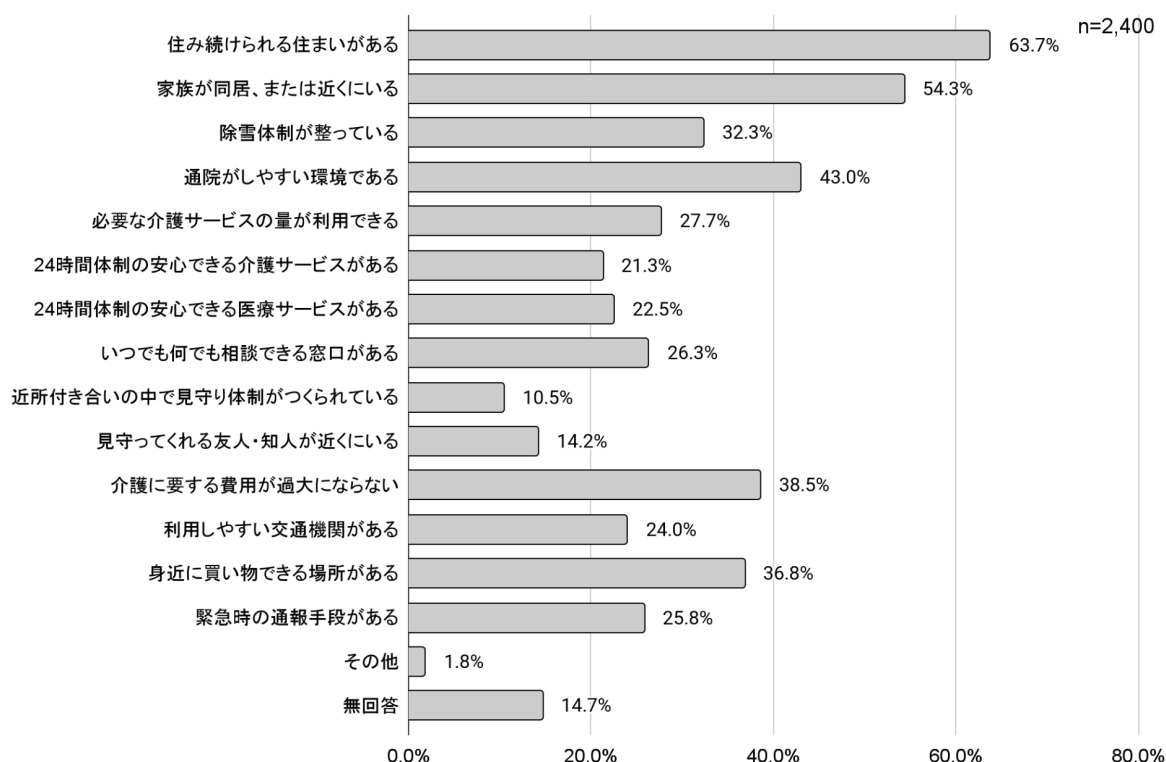
介護度が重くなったときの生活場所については、「現在の場所で生活が続けたい（自宅の場合、増改築を含む）」が43.0%と最も多く、次いで無回答を除き「特別養護老人ホームに入所したい」が10.5%、「介護老人保健施設に入所したい」「介護医療院に入所したい」が7.5%となっている。



自立した生活に必要なこと（複数回答）

自立した生活に必要なことについては、「住み続けられる住まいがある」が63.7%と最も多く、次いで「家族が同居、または近くにいる」が54.3%、「通院がしやすい環境である」が43.0%となっている。

自立した生活に必要なこと（複数回答）

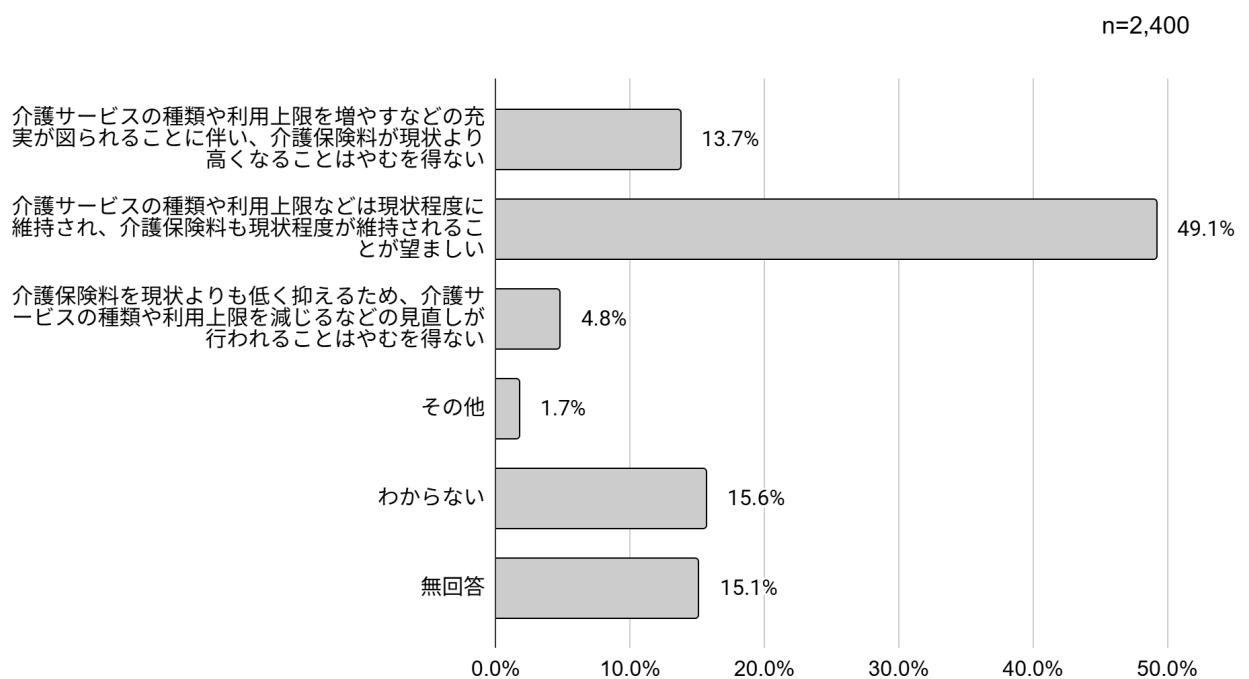


7 介護保険料と介護サービス

サービスと保険料の関係

介護保険制度における介護サービスと保険料の関係については、「介護サービスの種類や利用上限などは現状程度に維持され、介護保険料も現状程度が維持されることが望ましい」が49.1%と最も多く、次いで「わからない」が15.6%、無回答を除き「介護サービスの種類や利用上限を増やすなどの充実が図られることに伴い、介護保険料が現状より高くなることはやむを得ない」が13.7%となっている。

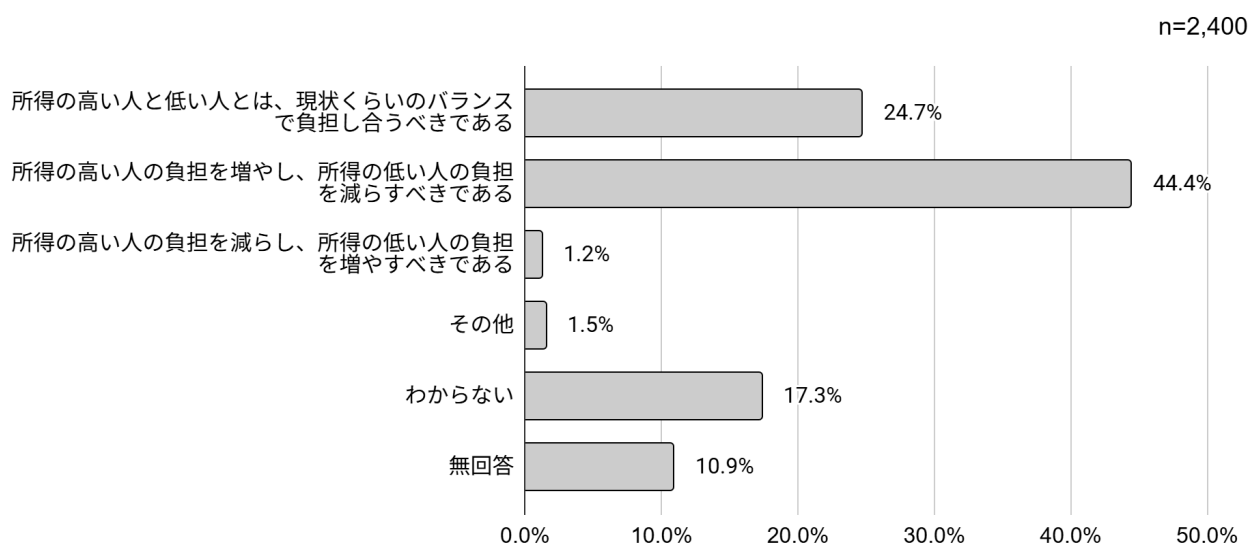
サービスと保険料の関係



保険料負担のあり方

今後の介護保険料の負担については、「所得の高い人の負担を増やし、所得の低い人の負担を減らすべきである」が44.4%と最も多く、次いで「所得の高い人と低い人とは、現状くらいのバランスで負担し合うべきである」が24.7%、「わからない」が17.3%となっている。

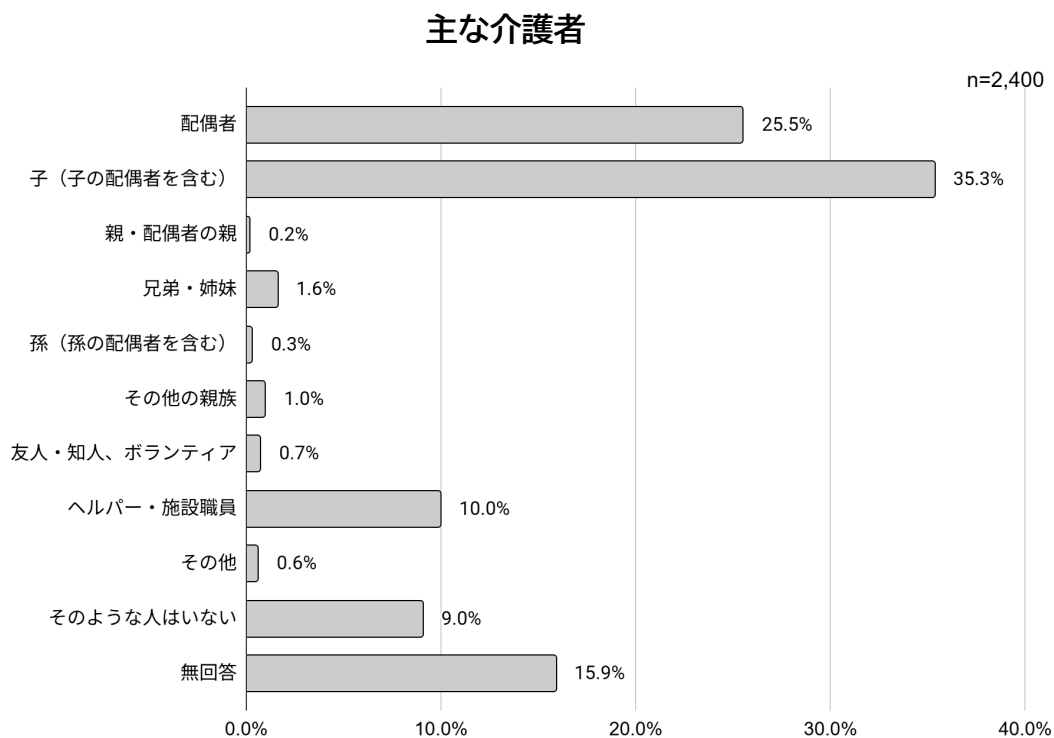
保険料負担のあり方



8 介護者の状況

主な介護者

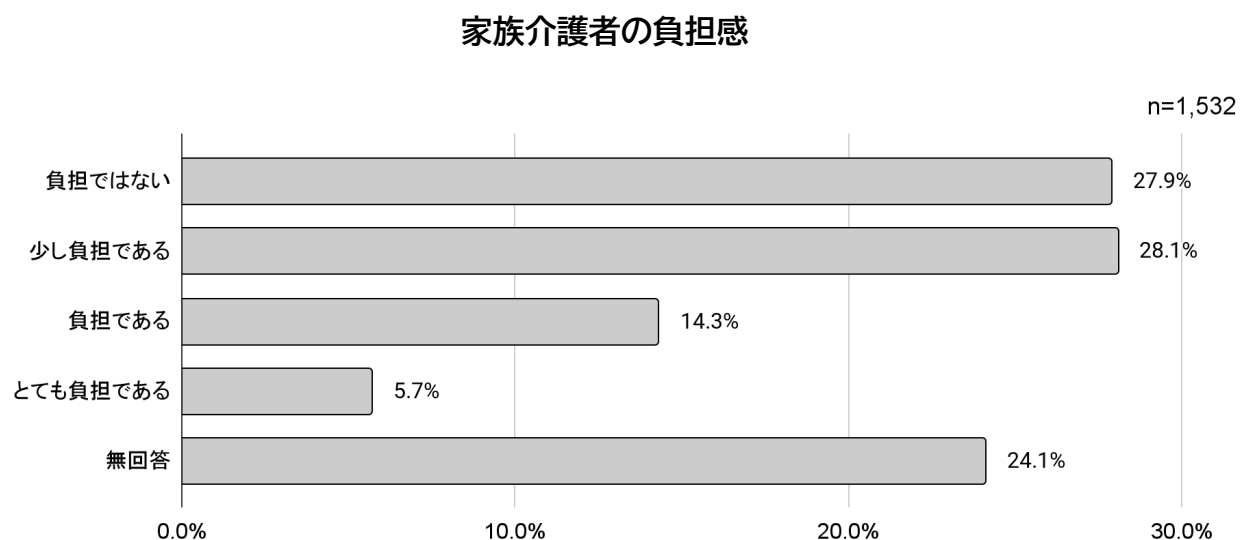
主な介護者の続柄については、「子（子の配偶者を含む）」が35.3%と最も多く、次いで「配偶者」が25.5%、無回答を除き「ヘルパー・施設職員」が10.0%となっている。



9 家族介護者の状況

家族介護者の負担感

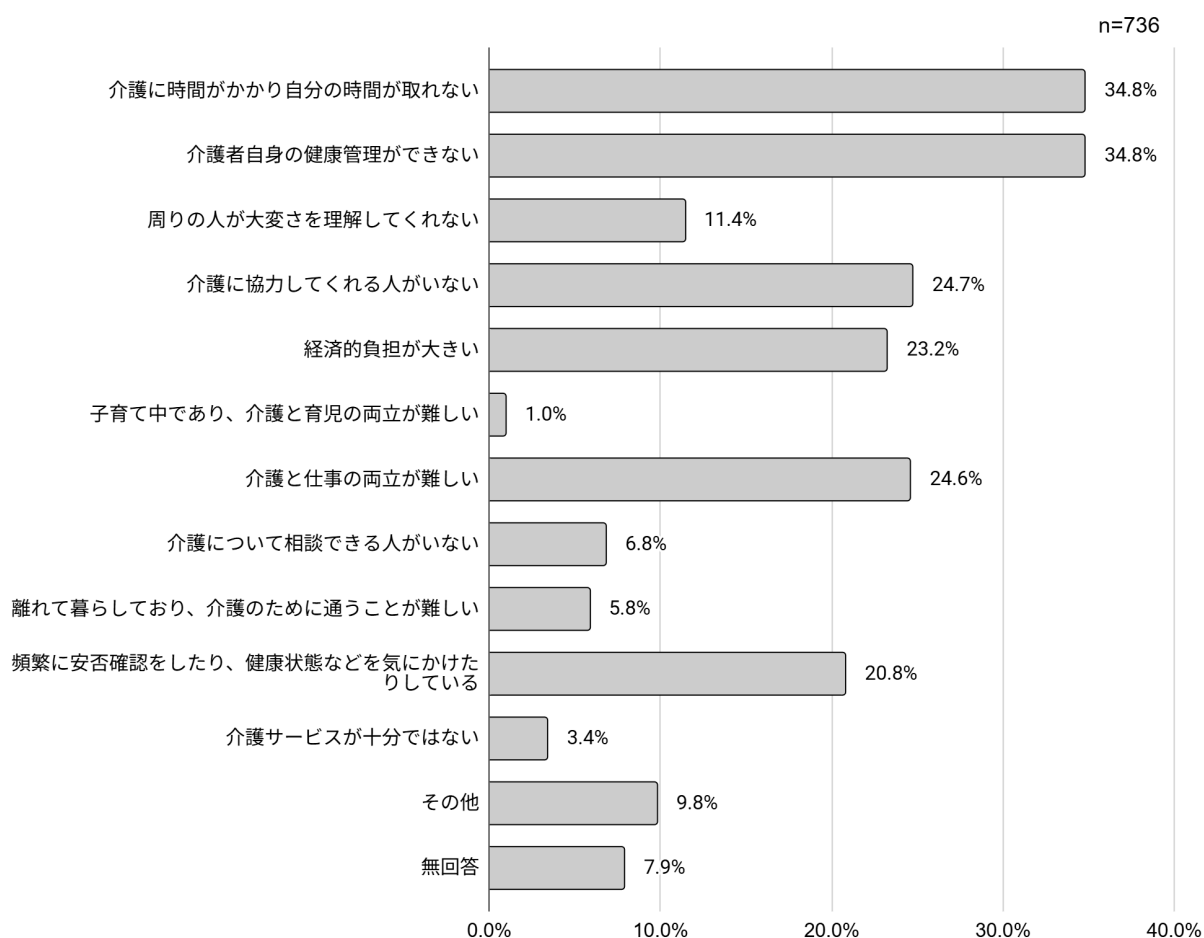
家族介護者の介護の負担感については、「少し負担である」が28.1%と最も多く、次いで「負担ではない」が27.9%、無回答を除き「負担である」が14.3%となっている。



家族介護者が負担に感じること（複数回答）

家族介護者の介護の負担感で「少し負担である」「負担である」「とても負担である」と答えた家族介護者に、負担に感じることを尋ねたところ、「介護に時間がかかり自分の時間が取れない」「介護者自身の健康管理ができない」が34.8%と最も多く、次いで「介護に協力してくれる人がいない」が24.7%、「介護と仕事の両立が難しい」が24.6%となっている。

家族介護者が負担に感じること（複数回答）

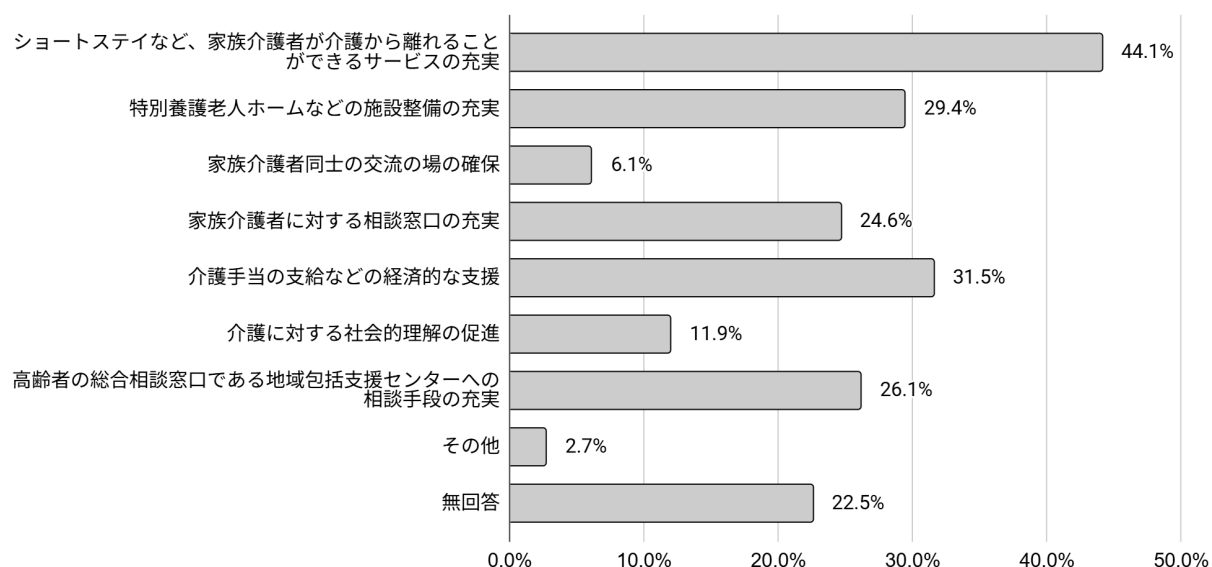


家族介護者支援に重要なこと（複数回答）

家族介護者支援として重要なことについては、「ショートステイなど、家族介護者が介護から離れることができるサービスの充実」が44.1%と最も多く、次いで「介護手当の支給などの経済的な支援」が31.5%、「特別養護老人ホームなどの施設整備の充実」が29.4%となっている。

家族介護者支援に重要なこと（複数回答）

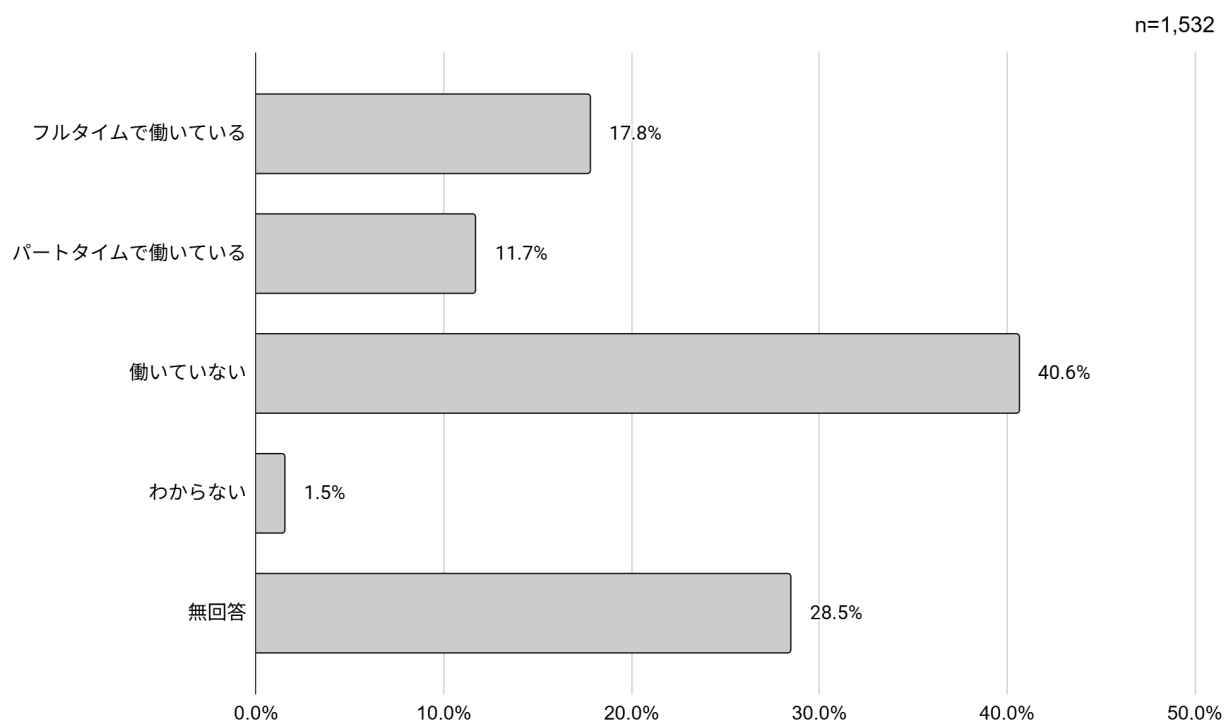
n=1,532



家族介護者の現在の勤務形態

家族介護者の勤務形態については、「働いていない」が40.6%と最も多く、次いで無回答を除き「フルタイムで働いている」が17.8%、「パートタイムで働いている」が11.7%となっている。

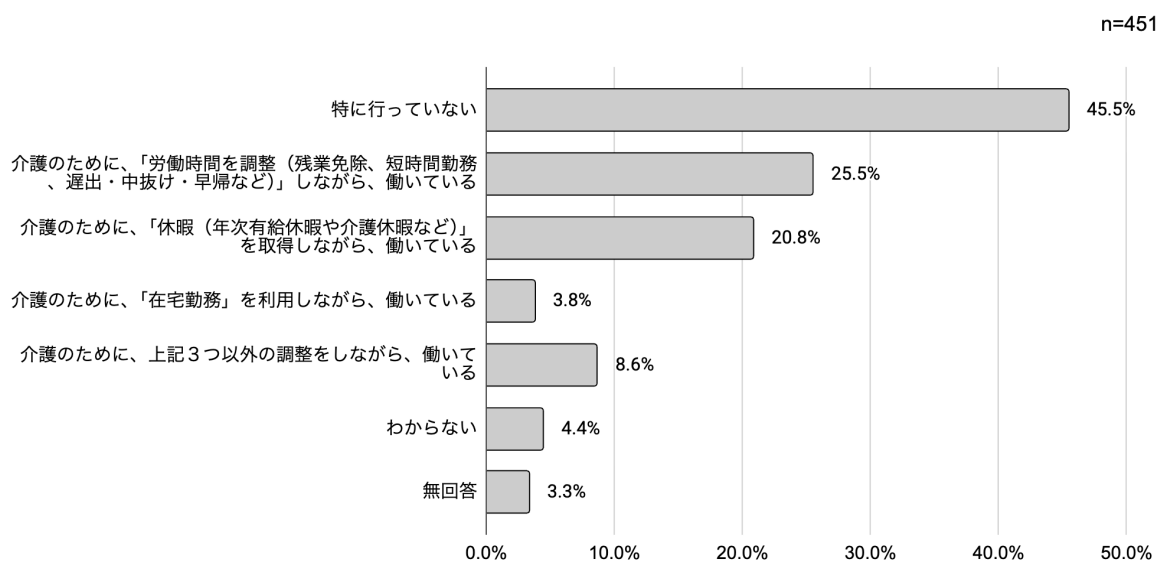
家族介護者の現在の勤務形態



家族介護者の働き方の調整（複数回答）

フルタイムあるいはパートタイムで働いている家族介護者に、介護のための働き方の調整について尋ねたところ、「特に行っていない」が45.5%と最も多く、次いで「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・中抜け・早帰など）』しながら、働いている」が25.5%、「介護のために、『休暇（年次有給休暇や介護休暇など）』を取得しながら、働いている」が20.8%となっている。

家族介護者の働き方の調整（複数回答）



家族介護者の勤め先からの支援（複数回答）

フルタイムあるいはパートタイムで働いている家族介護者に、仕事と介護の両立のために必要な勤め先からの支援について尋ねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が29.9%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が21.3%、「制度を利用しやすい職場づくり」が19.3%となっている。

家族介護者の勤め先からの支援（複数回答）

